

1 基本構想の背景

構想策定の背景

現在の茂原市民会館・茂原市中央公民館はこれまで、鑑賞や発表、日常的な文化活動を行う施設として、市民はもちろん、長生郡圏内における文化活動拠点として広く利用されてきました。しかし、いずれの施設も建設から50年が経過しており、施設や設備の経年劣化が著しく、市民会館については安全性を確保していくことが難しいと判断し、平成31年3月末での閉館が予定されています。また中央公民館についても、安全性や快適性等、様々な問題を解決することが求められています。

そこで、施設利用の将来を見据えて、新たな施設の整備について検討することとし、両施設の現状を把握するとともに、ワークショップ、アンケート、ヒアリングの実施によって、幅広い視点からの意見を集約し、再整備に向けた基本構想を策定しました。

上位・関連計画における位置づけ

茂原市民会館建設に関連する計画として、茂原市総合計画、茂原市公共施設等総合管理計画、第2次茂原市生涯学習推進計画、茂原市地域防災計画が挙げられます。これらの計画では補修等の整備、建設の検討、位置づけ、役割等が述べられています。

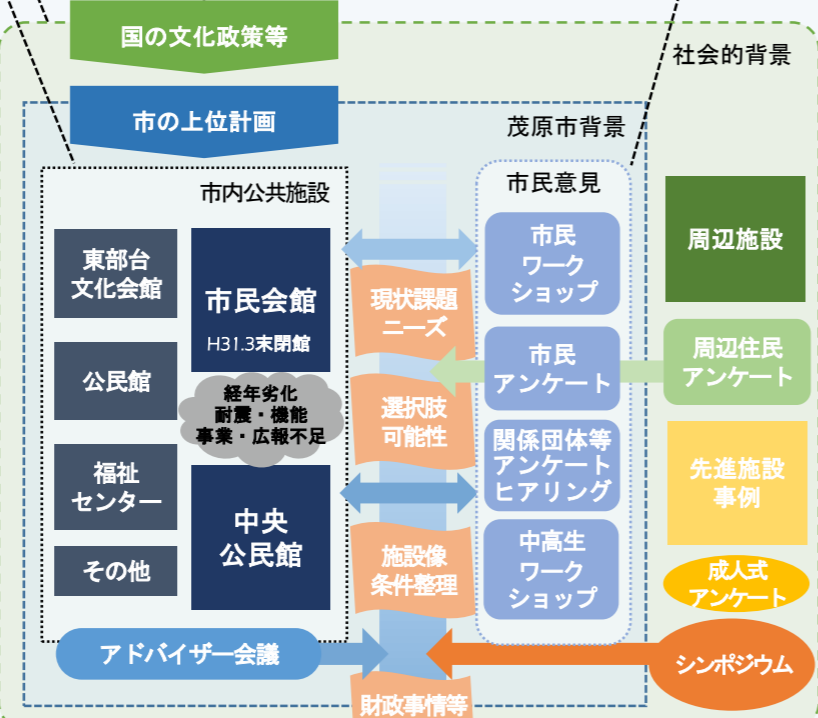
また国の文化政策の動向からも、「文化芸術振興基本法」（平成29年改正「文化芸術基本法」）や「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が制定されるなど、文化芸術の場・機会・体制等の必要性だけでなく、まちづくり等の分野における活用も推進しています。

市民の要望、意見、案等

市民ワークショップ	市民アンケート及び周辺住民アンケート
【大ホール】 ・本格的な舞台芸術上演の場 ・800席/1,000席/1,500～2,500席 ・固定席、バルコニー席設置 ・舞台奥行、袖、裏を広く確保 ・花道、能舞台の設置可能 ・優れた舞台設備の完備 ・楽屋の確保 ・搬入動線の確保	【求める施設像】 ・日常的に訪れたい、明るく、開かれた親しみのある施設 ・既存施設との住み分けをしながら、賑わいのある複合施設 ・音響の良いホール、バリアフリー、トイレ・駐車場・公共交通機関の充実 ・客席数は、901～1,200席、1,201～1,500席程度
【中・小ホール】 ・市民の練習、発表の場 ・100～200席/300席/500席/600席 ・大ホールのステージと同規模 ・リハーサル室としても利用可能 ・ピアノ、鏡張り、レススパー ・優れた音響照明設備の完備	【文化芸術の需要】 ・ほとんどの人が文化芸術活動の機会や環境に満足していない ・余暇を充実させるために必要な施設・場所として「劇場・ホール」が一番多く望まれている
【公民館機能】 ・調理室・会議室・茶室/和室 ・事務室・休憩室・視聴覚室 ・多目的室・練習室 ・交流センター/ボランティアセンター	【既存施設の評価・課題】 ・市民会館、中央公民館ともにほとんどの人が満足していない ・魅力的な事業がない・提供されていないこと、経年劣化等で雰囲気が悪いことが多く挙げられている ・市民会館は、千葉市内施設や市原市市民会館、東金文化会館のような広域からの集客力に劣る ・鑑賞したいと思われる事業を行うことで、茂原市への更なる集客が期待される
【その他の機能】 ・屋外広場・勉強スペース ・くつろぎの場・レストラン/カフェ ・物産店/アンテナショップ ・防災機能、情報発信機能 ・フリースペース/オープンスペース ・やさしい施設：ユニバーサル	【既存施設の評価・課題】 ・市民会館、中央公民館ともにほとんどの人が満足していない ・魅力的な事業がない・提供されていないこと、経年劣化等で雰囲気が悪いことが多く挙げられている ・市民会館は、千葉市内施設や市原市市民会館、東金文化会館のような広域からの集客力に劣る ・鑑賞したいと思われる事業を行うことで、茂原市への更なる集客が期待される
【関係団体等アンケート及びヒアリング】 【求める施設像】 ・舞台芸術だけでなく幅広い文化施設 ・外房における中核都市として文化の発信地 ・いつもなにかが行われて、自分たちで考えて使う施設	【求める施設像】 ・みんなが毎日行きたいと思う施設 ・様々な世代や外国の人との交流 ・勉強や読書ができる、いろいろな発見、幅広い知識を身に付けることができる施設
【機能への要望】 ・学校の音楽会、演奏会、オーケストラ、バレエの公演開催 ・客席規模：800席～1,200席 ・ホールの舞台間口・奥行を十分に確保、音響照明映像設備の充実 ・会議室との兼用も可能な楽屋 ・練習、リハーサル利用ができる部屋/音の出せる部屋 ・トイレの充実 ・バリアフリー、ユニバーサルデザインを意識した施設	【機能への要望】 ・音響照明設備の完備 ・楽屋/リハーサル室/音の出せる練習室/ダンスができる部屋 ・飲食店や商業施設、特産物コーナー ・スポーツ、勉強、ものづくりができる場所
【その他の要望】 ・子どもも大人も楽しい場所を ・子育て支援施設、キッズスペース ・防災拠点施設としても使用可能に	【施設でやってみたいこと】 ・演劇、ミュージカル、ダンス、合唱、吹奏楽、オーケストラ ・発表会、体験教室、講習会、模擬試験、説明会、スピーチコンテスト、成人式、文化祭、スポーツ大会、プラネタリウム、お遊戯会、子ども会、ワークショップ、ボランティア など
成人式アンケート 成人式に参加した新成人に新市民会館の整備に関するアンケートを実施 回答の半数以上が建設に賛成 回答者数 224名 賛成121/反対48/わからない55名	シンポジウム 市民ワークショップの基調発表、事例や潮流等を交えて施設整備について考えるアドバイザーによるシンポジウムを開催。参加者アンケートでは大多数が新たな施設を待望

市内及び周辺市町村における類似施設の状況分析

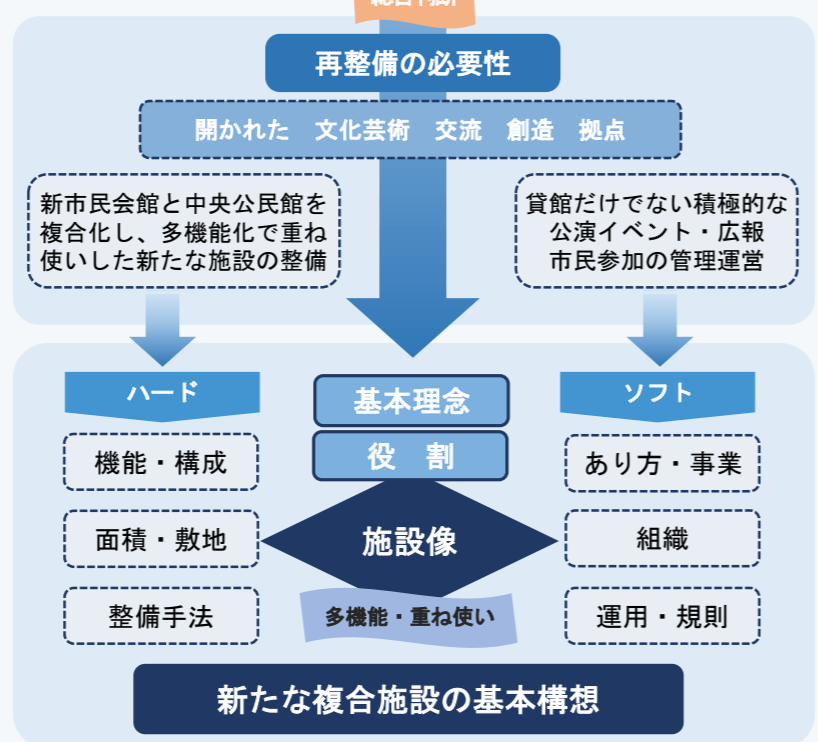
	茂原市民会館	中央公民館
建設年	昭和43（1968）年	昭和42（1967）年
施設機能	ホール（1,030名） 楽屋A 楽屋B ホワイエ	調理室/講座室 第1・2・3会議室 第1・2・3研修室 図書室/展示コーナー
利用状況	利用日数：約150日 利用件数：約170件 利用者数：約36,000人 本番利用が半数強。100席～300席規模での利用が最も多く、定員1,030席に対する占席率は低い。利用ジャンルでは集会・大会・講演会、オーケストラ	開館日数：約350日 利用件数：約3,300件 利用者数：約40,000人 生涯学習活動を主とした市民の日常的な活動の場として利用されている。
課題	・耐震性能・遮音性能の不足 ・設備の経年劣化 ・バリアフリー化未対応 ・舞台奥行が狭い ・ホワイエ・楽屋の不足 ・常駐職員の不足 ・自主事業が少ない	・耐震性能・遮音性能の不足 ・設備の経年劣化 ・バリアフリー化未対応 ・駐車場の不足 ・開館時間が短い ・情報発信の不足 ・利用者数の減少



市内には市民会館の他、舞台機能を持つ施設として、東部台文化会館音楽ホール、総合市民センター大ホール、茂原市役所市民室、本納公民館大会議室の4施設がありますが、東部台文化会館音楽ホールは主に市民の発表・練習の場として、その他の施設では公演以外の用途で多く利用されており、これらの施設は本格的な舞台芸術や大規模公演に対応できる規模ではありません。



市民会館と同規模の施設は市内にはなく、周辺市町村には700～1,500席規模の施設が点在しています。市外の文化施設とも広域的に連携協力をしていくことで、市民会館の機能を補完する必要があると考えます。



2 基本理念

基本理念

新たな複合施設は、文化芸術によって人々に安らぎや活力を与え、創造力や表現力を引き出す拠点として、市民生活を豊かにする様々な機会と場を提供します。また、地域や世代を超えた交流活動を生み出し、本市の魅力を外に発信しながら、賑わいのあるまちづくりに繋げていきます。



基本的な役割

① 日常的な市民の文化芸術活動・創造拠点となる

はじめての人でも気軽に参加できる活動から、更なる高みを目指して本格的に取り組む活動まで幅広い文化芸術活動を支えます。また、作品づくりやこれまでになかった取り組み等、創造的な活動や事業についても積極的に推進します。

② 交流を生み出す、市民の居場所となる

来館者が快適に過ごすことが出来る環境づくりに取り組みます。また、世代や地域、文化芸術ジャンル等を超えて交流する、新たな発見や出会いのある交差点となります。

③ 市民が文化芸術にふれる機会を提供し、健やかで豊かな心を育む

来館者が文化芸術にふれる機会を提供するだけでなく、市内他施設や地域へ飛び出し、文化芸術を直接届ける事業や、運営や事業に市民が主体的に参加・参画する機会や人材を育むことによって、豊かで充実した市民生活を楽しむことができるよう働きかけます。

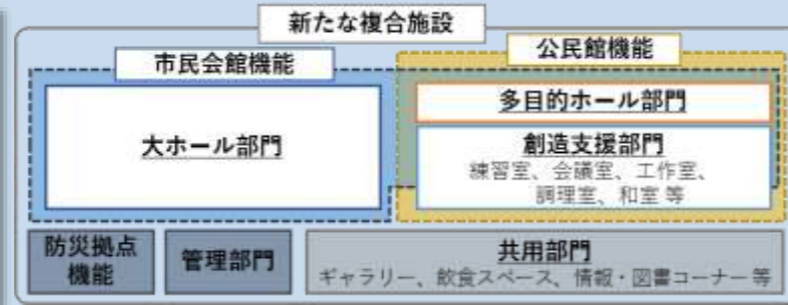
④ 文化芸術の力で“笑顔と自然と文化のまち 茂原”を醸成し、発信する

様々な機会や交流を通じて賑わいを生み出し、茂原発の事業等、内外への発信・PRに積極的に取り組むことで、人を呼び込み、まちの潤いや活気、市の目指す“笑顔と自然と文化のまち”づくりに貢献します。

3 機能構成

求める機能

各部門に設置する諸室は、さまざまな機能に対して柔軟な対応ができる「多機能」な設えとします。例えば多目的ホールを会議室としたり、利用がないときには大ホールの楽屋を練習室として利用できるよう検討します。そして、諸室や空間を「重ね使い」することで、ランニングコストや規模を抑えたコンパクトな計画を目指します。



大ホール部門	市民の鑑賞の場、発表の場。クラシックコンサート、演劇、映画上映にも対応し、平土間空間になる多機能ホール。客席規模は800～1,000席と設定。災害時の防災拠点としても機能する。	
多目的ホール部門	公演リハーサル、市民の日常的な練習の場。その他小規模の発表会、大人数での会議等、さまざまな用途で利用可能な平土間形式ホール。	
創造支援部門	練習室	日常的な練習活動の場。音の出る活動に対応するため防音・遮音性能を備える。
	会議室	会議室単独での諸室は持たず、他の諸室を「重ね使い」する。
	工作室	絵画、彫刻、陶芸等の美術活動等、多様な活動に対応できるよう給排水設備を備える。
	調理室	料理教室や食育活動、災害時等に対応できるよう、調理設備、給排水・給湯設備等を備える。
	和室	茶道、華道、書道等の活動の他、休憩室や災害時の宿泊場所としても機能する。
共用部門	催物が行われていなくても気軽に立ち寄れて、市民にとっての居場所・リビングとなる場。展示可能なギャラリー、打合せスペース、飲食エリア、情報・図書コーナー等を設置する。	
管理部門	施設全体の維持管理、諸室貸出の管理を一体的に行う管理事務室を設置する。	

上記部門他、廊下・通路やトイレ、設備スペース、機械室関係を含めて、施設全体の延床面積は概ね6,000～7,000㎡と想定しています。

再整備の手法

市民に親しまれる施設の実現にむけて、利用促進の仕掛けづくりや賑わいの創出とともに、財政負担の軽減を図るため、従来型の他、官民連携型の事業手法を含め、民間事業者の創意工夫や資金等の活用を念頭にした事業手法について検討します。

敷地環境

新たな複合施設が果たすべき役割や機能を実現化できる場所として、3ヶ所の広い公共用地（現市民会館・中央公民館敷地、現茂原セントラルモール敷地、駅前区画整理事業敷地）を抽出しました。各候補地とも、さまざまな観点からの検討事項を抱えているため、抽出した候補地以外の用地の抽出も含めて、さらに詳細な検討を進めます。

概算建設費

新たな複合施設の概算建設費は、現時点では約50～60億円が見込まれます。建設工事費については、今後の整備内容検討において市場の動向を注視しつつ、より具体的な試算を行います。

4 管理運営に関する考え方

基本理念で掲げた新たな複合施設の実現のために、単に施設を貸し出すだけでなく、様々な事業企画の提供や市民の文化活動・参加を推進していくよう働きかけることが必要です。また、施設の様々な使い方に柔軟に対応することも求められます。そのために、施設の円滑な利用を可能とする条例規則や一体的な運営を行うための組織体制を検討します。管理運営の詳細については、「管理運営計画」の中で検討します。

5 事業スケジュール

平成29年度に基本構想を策定し、平成30年度に基本計画の策定、整備手法の検討を予定しています。前述の建設候補地（敷地環境）によってスケジュールは異なりますが、最短は現市民会館・中央公民館敷地で平成35年度の完成を想定しています。

（仮称）茂原市民会館建設基本構想 概要版



平成30年 3月
茂原市